ミヤの山間より、和闐の近傍に迂回し、温暖なる原野を過ぎ、塔里木及羅布淖爾に向ふものなり、其の去るも亦同一の迂路を取ると云ふ。

鵰鷹の一種

鵰鷹の類に、海東西なる一種の鳥あり。土人は之を馴らして他の鳥類を獵す。其の大なるものは、能く狐兎を攫すと云ふ。

壓油鳥は、其の羽毛黑く、大さ鶉に似たり。能く人に馴れ、常に庭院に集りて飛鳴す。人若し手を以て之を掴めば、後孔より油脂を脱出す。故に此名あり。樹鷄は毛色美にして鸚鵡の如く土人は其の羽毛にて羽扇を造る、肉亦佳味なり。

以上述べし如く、野生の鳥獸多しと雖も、之を捕獲する獵夫少なし。然り少數の獵夫にてすら、尚ほ毎年外國に輸出する價格實に莫大なりとす。

狩獵

新疆の狩獵界や。實に前途有望なり。好獵家空しく内地に跼蹐せんより、宜しく進んで遠征を試みては如何。

家禽も亦頗る有望なり。然るに土人は自然に放任し、敢て改良を加へ之を増殖せんとするもの少なきは、要するに、交通不便にして輸出の途開けざるに原因すべし。